

編 集 後 記

コロナ禍による影響が未だ衰えない状況が続いておりますが、令和2年も序盤戦を終え、折り返し地点に差し掛かっております。このような難局におきましても、皆様からの精力的な論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読を快く引き受けていただいた先生方の御陰で、この度も本学歯学雑誌を無事発刊することができました。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

さて、本号では総説1編、原著論文4編並びに最近のトピックス3編の投稿をいただきました。巻頭のう蝕制御治療学分野のShamima先生の総説では、骨再生のエピジェネティック調節とそれらの臨床応用の可能性について述べられています。本号では硬組織関連の原著論文の投稿が多く、組織学分野の建部廣明先生（歯内歯の三次元形態解析）、歯科矯正学分野の尾立卓弥先生（ラット下顎頭軟骨の基質タンパク発現に対する顎関節への荷重負荷の影響）並びに臨床口腔病理学分野の吉田光希先生（DNA脱メチル化作用による効率的な歯髄細胞の石灰化誘導）から興味深い研究成果が報告されています。また、クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野の山中大寛先生からは、口腔インプラント専門医のウェブサイト広告表記に係る歯科医療体制の地域特性が報告されています。最近のトピックスでは薬理学分野の根津顕弘先生から唾液分泌機構に関して、同分野の石田成美先生からはエナメル芽細胞の分化機構に関する最新の知見が紹介されています。さらに、伊東歯科口腔病院の廣瀬知二先生からは、がん治療後の言語機能のサポートシステムに関する最新情報が提供されています。いずれも大変興味深い内容ですので、是非ご一読ください。

依然として、コロナ終息の見通しは立っておりません。しかしながら、「禍福はあざなえる縄のごとし」と言われますので、いずれ訪れるであろう福を迎えるためにも、明るく、少しずつでも歩を進めていくことが大切なのかも知れません。これからも、歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。(石井 記)

次号（第39巻、第2号）の発行は令和2年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和2年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2020年第39巻、第1号の巻末をご参照ください。